

令和5年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①いのちを大切にす心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にす指導や対応ができていますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	21.2%	54.5%	20.7%	3.6%	0.0%
児童	63.2%	27.1%	6.4%	3.2%	0.0%
教職員	28.4%	67.2%	4.5%	0.0%	0.0%

2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思えますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	20.0%	59.2%	18.4%	2.4%	0.0%
教職員	22.4%	68.7%	9.0%	0.0%	0.0%

3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	28.1%	53.8%	15.8%	2.4%	0.0%
児童	53.3%	33.8%	9.1%	0.0%	0.0%
教職員	31.3%	67.2%	1.5%	0.0%	0.0%

一人一人の児童の尊重については、児童による肯定的な回答が9割以上を占めている。今後も一人一人の児童を大切にすることを根底に、児童の自己有用感などを高めながら、他者も大切にしようという行動につなげていくとともに、居場所ある学級・集団づくりを図っていきたい。また、道徳・心の教育の充実に向け、担任以外による「道徳の授業」を全学年で続けながら、深い教材研究と指導法の工夫を学び合うとともに、児童が「気づき、考え、議論する道徳」の授業づくりをさらに充実させていく。家庭教育における心の教育の充実に向けても、題材を通して保護者と共通実践していききたい。

昨年度以上に児童及び教職員による肯定的な回答が高い割合を示している。本校が重点的に取り組んでいる生徒指導の三機能が定着し、「問い・対話・振り返り」を大切にす授業づくりや職員間での学び合いによる教材研究が成果の表れである。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	31.1%	50.2%	15.5%	3.2%	0.0%
児童	54.4%	36.5%	6.6%	2.5%	0.0%
教職員	43.3%	49.3%	6.0%	1.5%	0.0%

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	18.5%	60.4%	19.4%	1.7%	0.0%
教職員	25.4%	58.2%	14.9%	1.5%	0.0%

6 共生社会を担う人材の育成

「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	18.9%	60.8%	18.8%	1.5%	0.0%
児童	52.9%	32.4%	10.3%	4.4%	0.0%
教職員	25.8%	62.1%	12.1%	0.0%	0.0%

「ICT活用」において児童による肯定的な回答が多いが、GIGAスクール構想で一人一台タブレット導入後はICT環境が整い、効果的なICTの活用が定着してきている。今後もICTの研修・研究を進めながら有効活用していかねばならない。

特別支援教育の推進として、保護者との教育相談や学級懇談会等を通して、児童についての理解を高めたり、複数での支援体制について発信したりすることができた。また、コーディネーターを中心に、部会による職員間の情報共有を定期的に行うとともに、授業中もグループアプローチなどを通して児童同士が交流する機会を積極的に取り入れながら、児童相互による他者理解を促進してきた。あわせて、今後もさらに関係機関との情報共有を積極的に行いながら、保護者による理解と信頼を高めていききたい。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	23.2%	58.8%	14.6%	3.4%	0.0%
児童	67.8%	23.6%	5.2%	3.4%	0.0%
教職員	26.9%	64.2%	9.0%	0.0%	0.0%

8 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思えますか。

対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	21.5%	50.1%	23.4%	5.0%	0.0%
教職員	26.9%	67.2%	6.0%	0.0%	0.0%

⑤本校の教育

9 教育目標

学校は、教育方針や教育目標を子どもや保護者に分かりやすく示していると思えますか。

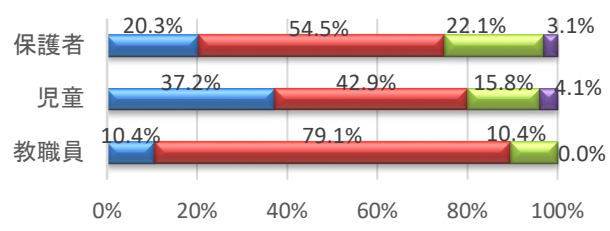
対象	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	19.7%	53.3%	22.8%	4.1%	0.0%
児童	59.6%	26.9%	7.4%	6.1%	0.0%
教職員	20.9%	62.7%	16.4%	0.0%	0.0%

昨年度同様、児童の事故防止の意識は高い評価であったが、休み時間や下校中のケガ等が多く見られた。今後も職員や地域による校内巡回や交通指導を行うとともに、児童自身が危険を予測し、自ら回避するなどの「主体的に行動する態度」を育成する安全教育を目指していく。「施設・設備の安全管理」については、毎月の安全点検とともに教員が安全に関する意識を高く持ちながら、日常的な点検を確実にすることができている。大規模な修繕等については、教育委員会と共有しながら、早めに対処している。「家庭や地域との連携協力」では、昨年度に比べ保護者の肯定的評価が高くなった。授業参観や学級懇談会など保護者が来校する機会が増えたことも要因の一つであるが、学校だよりや学級通信、学校メール等での周知も積極的に行った。今後も、ホームページや学校メールの積極的活用を通して、家庭や地域への周知を行いながら連携を図っていききたい。生活科や総合的な学習では地域の方に講師として招くなどの人材活用ができたので、今後も幅広く積極的に活用していききたい。

⑤本校の教育

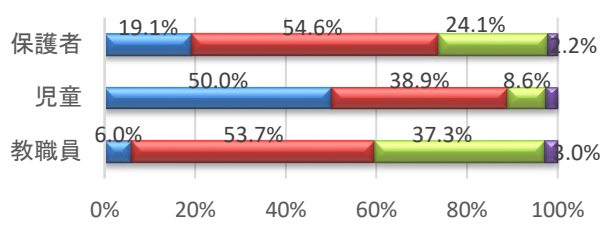
10 かしく

子どもは、めあてを持ったり、友だちと話し合ったり、進んで発表したりして、意欲的に学習に取り組んでいますか。



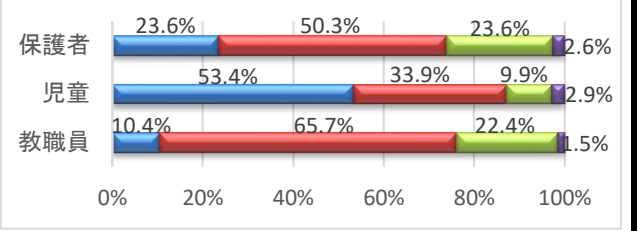
11 なかよく

子どもは、あいさつや返事、やさしい言葉遣いをしたりして、人と心豊かに関わっていますか。



12 たくましく

子どもは、食事に気をつけたり、進んで運動をしたりして、健康的な生活ができていますか。



「かしく」では、昨年度と同様、児童による肯定的な回答が多かった。今後もめあて学習を行いながら、進んで発表できる学級の支持的風土や学習意欲を喚起する発問の工夫など職員の研修を積み重ねていきたい。「なかよく」でも、児童の肯定的な回答が多かったが、児童同士の交流や関わりを継続している状況が、児童の人間関係の構築に効果を及ぼしている。グループアプローチによる「託東タイム」や「たくトーク」などのSSTの取り組みを継続していることで児童のコミュニケーション能力は身につけてきている。「たくましく」では、児童の肯定的な回答が高い結果であり、給食時の食に関する教育や教職員と一緒に外で遊ぶ活動を定期的に行っていることが効果の一つとして現れている。今後も食事や健康面については家庭と連携していかなければならない。

来年度の具体的な取り組みについて

○賢（かしく）＜進んで学び探求する子ども＞に向けて、生徒指導の三機能を生かした学級づくりを根底に、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善を行う。本校の取り組みの中心である「託東タイム」やそれを授業に活かした「たくトーク」を授業に取り入れ、対話（アウトプット）を増やしていく。タブレットや電子黒板などのICT機器を積極的に活用しながら、児童が意欲的・主体的に学習に取り組めるよう、職員研修や研究授業などを通して教師の授業力を向上させていく。高学年では、今年度と同様、一部教科担任制を導入し、深い教材研究のもとでの質の高い授業を目指す。

○睦（なかよく）＜なかよく助け合い励まし合う子ども＞に向けて、自分の居場所として安心安全な学級・学校づくりを目指す。道徳の授業を中心に、子どもの心を揺さぶり、葛藤を生む「考え、議論する」活動を通して、道徳的実践力の育成を目指す。また自己肯定感や自己有用感などを高めるために、全校活動の「花さき山」など自他の良さを認めあう活動を多く取り入れていく。いじめや子どもの人権を侵害するような行為に対しては、「いじめや暴力は許さない」という共通認識のもと、被害者に寄り添いながら毅然とした対応で早期解決を目指す。

○剛（たくましく）＜たくましい心と健やかな体を持つ子ども＞に向けて、体力テストの結果を分析し課題を把握し、体育の授業を中心に、体力向上に向けた運動や活動を取り入れる。また、体育の授業では児童を中心とした授業の展開を行うとともに、業間や昼休み時間には外に出て遊ぶよう委員会活動等で計画的に取り組む。けがや事故防止のために、定期的な安全点検と段階的な安全教育の充実に努める。

○授業参観や学級懇談会、教育相談、各種行事等において、保護者や地域との交流を積極的に行いながら情報を共有し、教育活動に生かしていく。また、積極的に地域に足を運びながら、地域の人材を活用し、地域の課題を解決する活動を通して、「地域とともにある学校」を目指す。

学校関係者評価

- ・子どもたちの意見、考え等を発信できる場面が多くなっていると思う。
- ・よい学習ができています。
- ・主体的に学習に取り組んでいる様子が印象に残る。
- ・学年ごとの取り組みなどとてもすばらしい。子どもたちも楽しく学ぶ様子がとても楽しそうでした。
- ・大変とは思いますが、もっと家庭との連携を高めていくと、学校や先生たちの取り組みによいのは思った。